

まつど未来づくり会議 会議録

分科会名：都市経営分科会（第2回）

開催日時：平成21年8月27日（木）16時～19時

開催場所：女性センター多目的室

出席委員：新井靖、小林恵一、斉藤利信、清水一（分科会長）、竹林清、中村美枝子、若林桂子（分科会副会長）、津川正治、加藤和彦、岡村隆秀（敬称略・順不同）

事務局：白井宏之、錦戸茂尚（政策調整課）

【会議内容】

■分科会長挨拶

- ・ 前回、皆さんに色々な意見を出していただきました。突拍子もない意見があったり、忌憚のない意見を出していただいて、今回につなげられればと思う。こんな意見はどうかと思う意見でも、積極的に出していただいて。どうまとまるかはわかりませんが。今日もよろしくお願いします。

■事務局説明（本日のねらい・進め方の確認）

- ・ 本日のねらい：「テーマ・政策に関する理解・探求促進」
- ・ 進め方：結論を出すのではなく、話し合いを通じて探求・理解を深めることを目的とし、第2回で話し合われた内容をもとに第3回以降で成果物を生み出していく。
- ・ 話し合いのルールの再確認
 - ⇒全ての意見に価値を置く
 - ⇒人の話をよく聴く
 - ⇒想いや考えは全体で共有する
 - ⇒時間厳守
 - ⇒未来に焦点をあてる

■チェックイン：「今の正直な気持ち」や「気になっていること」などの想いを共有

■分科会へのメッセージ・エール・依頼文の確認

■第1回分科会で話し合った内容の確認。

■データ集を読んだの気づき、感想の共有

- ・最後に施設がたくさん載っている。すべての施設が機能しているとは思いますが、会社なら採算性をとれるように損益分岐点がどこにあるのかということまで考えている。例えば、ある公共施設に夏に行くと、トイレまで涼しい。民間はトイレまでエアコンは入っていない。施設ごとに、公費を多く負担しているところはどこなのか見ていかなければいけない。そうすることで、職員の意識が変わるのではないか。このデータ集をみると、全体的に、住民に対する政策が載っている。松戸は東京の隣りにあって、人口も50万人になろうとしている。企業誘致を考えることもあるだろうが、海外に進出している企業は海外から無税で利益を持ってこられるので、松戸に進出する企業はまずない。すでにベッドタウン化しているという点から、ものごとを見ていった方がよい。
- ・データ集とアンケートを見た。市民の声とデータ集では乖離がある。データ集で市民1人あたりの職員数をみると、多いわけではない。しかし、職員が多いと思っている市民がいっぱいいる。市民は分散化があまり機能してないと見ている。本来、分散型は良いはずである。どこかで分散ロスが出ているのかもしれない。広報まつどを、ホームページで見ている市民は意外に少ない。インターネットがこんなに流行っているのに、なぜこんなに少ないのだろう。では、新聞折り込みの広報はどうかというと、市民ニーズ調査の結果をみると、新聞をとってないので広報をみる手段がない、どこかに置いてほしいという意見がある。松戸市としては、PRのやり方を変えていく必要があるのではないか。松戸市のイメージもあるが、広報をもっと真剣にやるべきかなあと思う。税金については、市民ニーズ調査の結果を読むと松戸市は税金が高いという意見が多い。一方、データ集を見ると、市民1人あたりの税収は低いとある。市民の方とずれがある。なぜずれるかということ、データが公開されてない、松戸市が今どんな状況なのかわからないというところに行きつくのではないか。i-cityということが書いてあるが、こんな構想でやっているなんて知りませんでした。PR不足ではないか。予算の配分は、適正に配分しているとなっているが、配分の仕組み、どういう優先順位でやっているかはっきりしない。そういうところははっきりすべき。今回の会議では、政策23の運営管理と配分の話がメインになると私は思っている。限りある予算で、どういう優先順位でやっていくか。皆が合意できるマストを考えて、一番喜ぶ人は誰にするかをキーにして、予算配分した結果どうだったかということで決めていく仕組みが必要である。ベッドタウンだというのが、ベッドタウンでのサラリーマンの市税収入は、市税全体のうちどのくらいあるのか示してもらいたい。企業を誘致しようという話があるが、市税全体の

うち企業からの税収はどのくらいあるのか。

- 市民には、自ら何かに参画したいという人だけでなく、誰かに何かをやって欲しいというニーズが少なからずある。市民ニーズ調査報告書を見ると、ボランティアに参加したいかとの質問に、圧倒的に参加したくないと答えている。私はすごくショックである。特に若い世代ですね。何をもって市民のニーズに応えたのだろうかということを確認できる指標が必要だと感じた。経常収支比率を抜本的に改善する策が、どうしても必要だと私は思う。税金がどのように徴収されて支出されているか、わかりやすく説明する責任が行政にはあるし、市民はそれを理解する必要がある。行政経営に市民満足度を指標として加える必要がある。
- 私が考える2020年度の松戸市の目標として掲げる必要がある項目。担税力を引き上げる。近隣4市同様に、財政力指数を1.0にする必要がある。経常的経費の中で扶助費の増え方が大きい。これはなかなか削れないのかもしれないが、これへの方策が必要。義務的経費、人件費比率を改善する必要がある。自主財源比率を改善する必要がある。
- 今後のまちづくりの希望。柏と松戸を比較して、柏の方が賑わっていて、将来性があり良いという人が多い。一点豪華主義をお望みなのかなと思ったが、市民ニーズ調査の結果をみると、意外にも分散型、分散投資を望む声が多い。なぜ、柏が良いというのだろうか。目玉が欲しいのではないだろうか。地域ごとに1つ光るものがあれば良いと考えるのではないか。柏の良さと松戸の良さがミックスすれば、魅力あるまちづくりは進んでいくのではないか。
- 日経新聞に千葉県内の情報公開度が載っていた。1位は、千葉市、柏市だった。松戸市は4位だった。そういう点でも柏市に魅力を感じるのではないか。
- 政策22の松戸の強みに情報、意見募集ツールが充実しているとあるが、本当かなと思う。戸定館のことで質問があったが直接聞いても要領を得ないので、秘書課に尋ねたら担当の戸定館から回答がくる。別の回答方法があっても良いのではないか。丸投げして戻ってくるのなら意味がない。防災の関係で、独居老人の名簿を出してくれといっても、出してくれない。市民の安全を守る市としては後ろ向きの考えだと思う。市川、船橋は災害時には出すと言っている。政策23の特筆すべきニーズの変化に書いてある、老朽化した施設の再編・整備について、たしかに老朽化している施設の整備にはお金がかかるが、市民活動の拠点になる場なので、市民活動を活発にしようと思えば整備が必要。施設はこれだけたくさんあるが、児童館はお粗末。
- 政策22に現状評価と重要度の図というものがあり、評価が低くて、重要度が高いものが注目点だと思った。統計から出てくるものと、市民のニーズとの照合がどこかで必要なのかなと思う。データ集183ページに、産学官懇

談会で良いものが出てくる可能性がある」と書いてあるが、具体的でなくてどうかなと思った。強みと弱みも注意して見た方が良いと思う。191ページに弱みとして、1人あたり市税収入が低いと出ている。人口のバランスも影響しているのかもしれないと思った。実際にはどうなのかわかりませんが。また、滞納整理に強みがあるとも書いてある。前回の会議で依頼文のメッセージとして挙がっていたが、既に対応しているということだ。職員採用を減らすということも同様に対応している。市民に良く伝わっていないということだ。何となく感覚で市民からそういう意見が出たのだろう。もっと上手にPRすると市民の認識とのギャップが埋まるのではないかと。

- ・ 小金原に住んでいるが、高齢者が増加している。それに比較して若年層があまり増えていない。市有地、施設等の有効活用。売却、企業に貸す等。余裕教室の利用、休止教室の有効活用。支所から市役所というルート確立。支所をより身近な窓口。既得権益は排除すべき。
- ・ 他市と比べ、1人あたり市税収入が少ない。原因は、収入が多い人が他市と比べて少ないからである。それなら、金持ちを集めれば良いのか、困っている人はどうするのかという議論になり、判断が難しい。1つ言えることは、少ないなら少ないなりに、そのお金で何とか補う工夫とか、発想の転換とか、弱みを強みに変える工夫を重ねていかないと、他市に比べて苦しくなる。
- ・ データ集の193ページにあるように、公共施設については数が多いのが強みであり、老朽化しているのが弱みである。今後、耐震化や建て直しが大きな問題になってくる。施設の維持管理費がばかにならない。先ほど、経常収支比率の話があったが、施設の維持管理にもかなりのお金を費やしている。こういった施設を今後どうするのか、新しく作るのか、増やすのか、今、無駄になっているものをなくして統廃合をするのか、といったことを考えるのが重要になってくると思った。

■対話セッション

- ・ 矢切の渡しは、松戸市で援助はしていますか。
- ・ していません。トイレ、道路、修景整備はしています。
- ・ 矢切の渡しは、実際は柴又の渡しになっている。松戸側に来て何も無い。がっかりして二度と来ない。柴又側には食事するところなどがある。循環バスなどで、戸定邸、伊勢丹、松戸駅などに行けるようにした方が良い。
- ・ 矢切の渡しは、元々は個人のサービス。土日だけやっている。どこのまちでも観光地を結ぶバスが整備されている。松戸にはないのがさびしい。税収の増加につながるかもしれない。
- ・ 矢切の渡しをイメージダウンさせたくない。矢切の渡しといたら、日本中

で有名である。

- せっかく松戸まで来たのに、みんな帰ってしまう。観光客は柴又にお金を落とす。
- 市民でも、渡し場がどこにあるのかよくわからない。行くまでが大変。
- 看板が小さくてよくわからない。
- 今まで力を入れて来なかったのは、人が来ないから。他との優先順位でやって来なかった。
- 民間的発想では、人が来ないなら、来させることを考える。
- 市内に来るにしても、戸定館だけでは来ないのではないか。
- 少なくとも、イメージダウンは避けなければならない。
- 大谷口に地場物産の店がある。倉庫を地場物産の店として借りている。行列ができて売り切れている。矢切でも同様の店を作り、戸定館、野菊の墓とつなげて、柴又からきたお客さんが松戸に来て良かったと思ってもらえるようにする考えはないか。
- 外環がとおれば、道の駅のようなものができるかもしれない。
- 民間がやったからできた面もある。行政がやるとなると、近隣にスーパーや八百屋があつたりで難しいかもしれない。
- アセットマネジメント。使うものと使わないものを考える必要がある。松戸は分散型だからいっぱい支所がある。更新もしないといけない。常盤平図書館に行ったが、図書館のイメージではなく病院である。まちのイメージは外観で決まる。見た目をきれいにする必要がある。そこにはお金をかける必要があると思う。
- 松戸は分散型だから図書館分館が多い。1つの考え方として、1か所にどーんと豪華なものを建てて、その代わり分館はやめるという考えもある。今までの経過として、すぐ近くに、歩いて行けるところに分館があるという考えでやっている。
- 分散型でやって良かったが、分散型を見直すことも必要だ。また、建物の塗装の剥がれ等も対応が必要だ。そこにはお金をかける必要があると思う。
- 修理で済むうちは良いが、いつかは建物を壊さなければならない。全部の施設の再編がいつか必要になる。
- 今後10年のうちに射程に入っている施設について、このまま分散でいくのか、集中させるのか議論が必要だろう。
- 我々は都市経営分科会。時間がないので分科会としての考えを出す必要があるのではないか。自分の想いを話すだけでなく、分科会としてどうするかを話し合った方が良いのではないか。今後、2回やることのテーマを絞る必要があるのではないか。

- ・ 5年後のことを話す場合、会社だったら論点を絞る。同業他社との比較をする。市なら近隣の柏、市川、船橋と、特に財政等を比較する必要があるだろう。
- ・ これからの松戸が、税収だけでは頭打ちなら、企業や若者の力を借りる必要があるだろう。
- ・ 税収が他に比べて少ないのはなぜか。
- ・ 年齢分布は、高齢化率等を考えても、近隣とそう変わらない。
- ・ 柏とのイメージの違いではないか。また、単なるイメージだけでなく行政サービスとかも影響する。
- ・ 柏と比べ、税収が低いのはなぜか。
- ・ 企業と個人から税収があるが、松戸は基本的には個人からの税金である。千葉市、船橋市は法人が強い。市川は個人の所得層が高い。柏は法人だろう。
- ・ 松戸市の税収は、どこかの大企業が来なければそう変わらないだろう。
- ・ 法定外目的税でもかけられれば別だが。
- ・ 法人市民税に依存している豊田市などは、今の経済状態だと厳しいだろう。松戸はそうでないので、安定的なのが強みである。
- ・ 近隣市、柏市、船橋市、市川市、千葉市と比較するのは、恒例なのか。他の市とは比較しないのか。
- ・ 通常、他市と比較するときには、自分の市の状態がどこにあるかを知るための目安として、柏市、船橋市、市川市、千葉市と比較している。
- ・ 千葉以外の市に目を向けることはしたことがないのか。
- ・ 全国順位でも比較しているが、比較しやすいので、柏市、船橋市、市川市、千葉市を使っている。
- ・ 柏市、船橋市、市川市、千葉市と競い合っているわけではないでしょう。
- ・ あくまで目安として使っている。
- ・ 松戸は税金が高いのか。
- ・ 高くはないと思う。地方税法で決まっているので、松戸だけ高いことはない。
- ・ 固定資産税であれば、土地の価格は東京に近ければ高いので、その分税金も高くなる。住民税は、前年度の所得に対してかかるので、どこの自治体でも同じである。
- ・ 税金でなくて、使用料等でそういう感覚なのかもしれない。
- ・ 保育料、国保料は東京と比べると高いかもしれない。
- ・ 松戸は、東京のサービスの良さを横目で見ながら、背負わなければならない。
- ・ 税収が低いことを甘んじて受け入れているのは、抜本的に経営的に問題があるのではないか。
- ・ 収入の少ない個人を減らすとしたら、例えば、土地の取引を一定規模以上に

- するなど対策はあるが、そういうことはしていない。
- 税収が他市に比べて全然ないわけではないし、今まで横ばいできているから、非常に問題があるわけでもないだろう。
 - 税収が増える見込みがなくて、東京と比べて低いのだから、住民サービスはそれなりである。
 - それなりでやっていくか、メリハリをつけるかはどうするか。
 - こういうところで話し合えば良い。
 - 税収は減ることはないのか。
 - 減らないように、魅力あるまちづくりをする。
 - 市職員の給与は、近隣と比べどうか。
 - 近隣4市と比べ低い。
 - 病院を含めると、人数と金額が高くなる傾向がある。
 - 職員の高齢化への対応は。
 - 団塊の世代が減っていけば、人件費は落ちていく。今がピークである。
 - 市民ニーズ調査の市民からの意見の中で、広報まつどに関するものがあつた。広報まつどは、駅や支所にも置いてある。新聞をとっていなくても、個人宅に配達してくれる。そういうことを市民は知らない。調べないで、自分のところに来ないから、来ない来ないと言っている。支所がどのくらいのサービスをしているかアピールしていない。
 - 支所が100%機能してしまえば、本庁にそんなに人がいない。
 - 支所ごとのコストは。
 - 松戸の場合、支所は出張所のようなもの。支所というと通常は、市役所のミニ版である。松戸の場合は、市民課の延長で始まり、その後年金や福祉などサービスが増えてきた。スペース的にも、機能的にも限界がある。
 - 分散型が松戸の強み。都市経営の観点から、分散を継続した時に、集中よりも良い、コスト削減になる、住民サービスが向上するといえるのであればその方向で進めるべきだ。
 - 8支所を今のままにするか、いくつかまとめて総合支所とするか、今後検討が必要になる。
 - 権限を徐々に委譲していけば、支所でサービスが即決できてサービス向上になる。しかし、本庁1つでなく支所があれば、建物改修にコストが余分にかかる。だけどみんながそれで良いと納得すれば問題ない。かかるコストと、それらのサービス向上とを比較して、収支があえばそれで良い。

■投票：対話での探求を踏まえて、共有された課題意識・想い・具体的な期待の中から特に重要だと思うものに、シールで投票した。

■項目の中で市民として貢献できることや課題に下線をひいた。

□ 以上の内容を整理したものが別紙。

■話し合いの感想を共有

- ・ 矢切の渡しは注目度が高い。実現する対応策が難しい。民間プロジェクトを立ち上げるのはできないか。色んなニーズに見合った市民の参画という考え方を浸透させる時代になっているのだろうと思う。健全な財政運営に対する危機意識が皆さんの中で強いと感じた。
- ・ 市役所、市民、企業などが連携し、魅力ある松戸市づくりのために、地域サポータ制度を。
- ・ 最終的に松戸を魅力あるまちにしたい思いが強いなあ。市民参加は必要だが、それには限界がある。行政でのプロジェクトが必要ではないか。
- ・ 税収減少は逃れられない。支出を抑えるしかない。退職世代のボランティアをどう活用すべきか。予算は使い切るのではなく、残すようにすべき。横浜は1年目に8億円残し、2年目に14億円残した。
- ・ ハコモノ行政は終わった。今は、施設の老朽化が課題になっている。これから公共施設の再編、サービス体制を練り直す必要がある。
- ・ 税収が下がる傾向だが、特効薬はない。支所を見直して、うまく使えば良い。ボランティアを活用しなければ、市政がまわらない。行政だけではできない部分は、少ない税収をカバーするため、地域の人にも参加してもらう必要があるだろう。ハコモノ行政のつけがきている。一気に建てた施設が、一気に老朽化している。
- ・ 人、金、資源、それぞれを有効活用していく。それぞれがほどほどであっても構わない計画。それを積み重ねていって何か起きるのかもしれない。当り前のことを当り前にやる。矢切の渡しのイメージを崩さないようにする必要がある。
- ・ 都市経営分科会としての意見を出すのか。すると、財政の問題がテーマなのではないかと私は思う。
- ・ 人それぞれみるところは違う。限られた財源で、選択して、集中していくのがこれからの課題。財源が限られているので、全部が全部できるわけではない。皆さん色々意見はあろうが、今まで以上に優先順位をつけてやっていくしかない。
- ・ 市民ニーズと財源のバランスにシールが多く貼られている。どちらに重点をおくべきか。財政的に健全な松戸市になって欲しいという意見が多く出ている。皆さんどういう意味で捉えているのでしょうか。夕張市の問題があつて、財政健全化比率を出すことになった。松戸市の比率は問題がなく、財政は健

全である。広報が下手なのかもしれない。松戸市は、平成20年度に17億円、19年度に40億円、18年度に50億円残している。

- ・平成20年度に17億円残った理由は何ですか。
- ・歳出については、やるべきことをやって余りが出た。歳入については、収納率が上がった。
- ・その話は市民は知らない。
- ・17億円残したのは、電子入札にして広く募集するようになったことは影響しているのか。
- ・電子入札にする以前から、残しています。競争入札も以前から実施しています。
- ・次回までにやっておくべきことはありますか。事務局サイドとしてある程度こういう計画を考えてくれというのはありますか。
- ・それを、いま皆さんで話し合っていたのかなどと思っています。皆さんの関心の深い部分について、ご提言をいただくのが我々の趣旨です。
- ・あまり予算が余ると、積算が甘いということになる。
- ・総務省のホームページをみると日本国中の決算の状況を見ることができる。
- ・市議会議員は何人いるのか。
- ・46人です。
- ・近隣と比べて多いのか。
- ・人口に応じて法定数が決まるので、一概に言えない。松戸市は法定数と一緒である。
- ・市には公団、公社はあるのか。
- ・7～8ある。なくす方向になっている。国とは全然違って、退職金の「渡り鳥」などはない。定年になった再任用職員とほとんど変わらない待遇である。

■次回の説明

ここまでの探求を踏まえて、私たちは何を実現したいのかを政策テーマごとに検討し、「目指したい姿の宣言文」を作成

■次回、次々回の日程

- ・10月 1日（木）17：00～20：00
 - ・10月20日（火）17：00～20：00
- に決定。場所は追って連絡

■チェックアウト

以上

政策	想い・課題意識	具体的な期待
<p>22 市民ニーズに基づく行政経営を行う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が働きやすい都市⇒交通網の整備 (3) ・市民が働きやすい街⇒連携の強化 ・市民の力を行政に取り込む (3) ・パートナーシップの視点にたった人事行政の再検討、人材育成 ・市民ニーズと財源のバランス (7) ・市民ニーズに関して若い世代の意見が十分に聴けていない ・ニーズの把握はしているのか ●約50万人になろうとしている。ベッドタウン化で考える ●行政経営には市民の満足度を指標として加えることが必要 (4) ●柏市を評価する声をよく耳にするが分散型のまちづくりを望む人が意外に多い。柏の良さと松戸の良さをミックスしたら… (1) ●広報がうまくない (1) ●政策23 老朽化した施設の再編・整備が必要 (1) <ul style="list-style-type: none"> →市民活動の拠点となる →児童館を増やせないか ●政策22 情報提供、意見募集のツールが充実している。本当か？ <ul style="list-style-type: none"> →担当課はできているかもしれないが、たての情報検討ができているか ●p.182 現状評価と重要度の図 Aゾーン 評価 低、重要度 高 についてのニーズとの照合？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通(コミュニティバス)の整備 (3) ・日々の暮らしの中でコミュニケーションが充分とれるようになる ・魅力のあるまち (6) ・リサイクル品の活用 ・様々なニーズについて優先順位をつけることが求められるのではないか (1) ・適材適所(モチベーションのあがる人材活用) (4) ・ニーズに応じられない場合の対応として説明を充分にする必要性 ●支所を身近な窓口に。支所から市役所へのルート確立 (3) ●既得権益を排除し公平に ●若者人口が増えないか？(昼間どのくらい松戸市内にいるのか?) (1)

政策	想い・課題意識	具体的な期待
<p>23 財源、財産を適正に管理し、配分する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・財政的に健全な松戸市になって欲しい⇒安心して住みたくなる町、住みやすい町 (9) ・無駄な支出があるのではないか (2) ・有効に(支出が)使用されていないのでは ・財政に関して市民にわかりやすい説明がなされていない (4) ・予算制の考え方(内容にもよるが残があっても良い) (4) ・各部門の見直し(余計な部門はないか、世の中は動いている) (2) ・扶助費(民生費)は増加が止まらない(地域住民の高齢化など) (1) ・行財政の効率性の追求(既得権の見直し、スクラップ&ビルド) (1) ●財政力指数を早期に1.0にする目標をもって各種施策を展開する必要があるのではないか (1) ●担税力が近隣4市と比較して一番劣っている。これを引き上げる必要があるのではないか (3) ●経常的経費の中で扶助費の増えが大きい。これをおさえることはできないのか (1) ●各施設ごとの損益分岐点は(負担金の多い設備) (7) ●近隣4市との比較で劣っている義務的経費比率、人件費比率の改善を図る必要があるのではないか (1) ●自主財源比率も近隣4市比較で一番悪い。これへの対応の必要性 (1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・民間委託による経費削減 ・市内企業などの市への協力(広告収入など↑) (3) ・人件費の削減、パート(フレックスタイマー)の活用 ・松戸市の独自ブランドのコンテスト等の実施 ・地域にいる退職者などのボランティアへの登用 (7) ・工場、企業の誘致 ・新しい起業への援助 ・小学校6年生に説明しても理解できるようになる (1) ●市有地、施設の有効活用(売却、企業に貸すを含む) (7) ●余裕教室利用して(休止)施設を有効活用